

## 研修報告書 No.6

研修先： 土佐市民病院

高知県土佐市の土佐市民病院にて 1 ヶ月研修を行いました。私の地域研修を支えてくださった皆様に、まずは心より御礼申し上げます。

研修内容は、主に外来診療、病棟管理、救急、内科当直でした。外来は曜日別に内科、小児科、外科を経験しました。自分の外来を持つのは初めてのことで、わからないことばかりでしたが、看護師さんや上級医の先生にたくさん助けてもらいながら何とか乗り切ることができました。内科ではコロナ感染症の患者さんが再び増えていましたが、重症化リスクの推測や入院治療の必要性の判断についてたくさん勉強することができました。小児科、外科の外来も初めての経験でしたが、指導医の先生が常についてくださっていたので、安心して診療にあたることができました。また、デューティのない時間には自由な研修が許されており、私は皮膚科外来を見学したり、外科手術に入ったりしました。外科手術は大腸癌や甲状腺癌など幅広い症例を経験することができました。大腸癌の手術は、これまでは腹腔鏡下やロボット支援下手術しか見たことがありませんでしたが、外科医数や設備の関係から、開腹での癌摘出手術に参加することができました。大きく開いた正中創から腹腔内の構造を間近に観察し触れることができました。興味のある診療にはどんどん参加させてもらえる研修体制が大変有難かったです。

病院の雰囲気はとてもアットホームで、各科の垣根の低さ、スタッフ同士の距離感の近さは大学病院との違いを一番感じたところです。1 ヶ月しか滞在しない私にも、どなたも親切に声をかけてくださり、質問したときはいつも丁寧に教えてくださいました。毎日多くの患者さんが来院していましたが、マンパワーは決して十分ではないと感じました。救急の現場では、重症度や緊急性の高い患者さんをもっと大きな病院へ搬送しなければならない場面にも遭遇しました。院内では中核となる先生方が何人分も何役もこなしており、もしその方たちが抜けてしまったら、現状と同じ機能を保つのは難しいだろうと感じました。一方で、“この先生に相談すれば何でも解決する” という先生がいるのは若手には有り難いことで安心感や働きやすさにつながるものだと思います。

患者さんの印象としては、東京と比べて家族と同居している高齢者の方が多いと感じました。介護サービスの利用は浸透しているものの、家族の介護負担は重くなると思います。誤嚥性肺炎で入院になったある高齢女性を担当した際、その方の退院後ほどなくして、今度は主介護者である娘さんが体調を崩して入院になったケースも経験しました。

休日には自然の美しい高知の様々な観光地を回ることができました。お盆休みには足摺岬まで足を延ばしましたが、道中で高知県は四国山地の険しい山々と終わりの見えない太平洋に囲まれた土地であることを痛感しました。他県や四国外とのアクセスには不便もあ

りますが、手つかずの美しいものや昔から変わらない温かいものが残されているのだと思います。海岸線を走るとどこまでも真っ直ぐな水平線が視界に広がり、こんな大海を見ながら育ったら心の器も大きくなるだろうなと感じました。また、8月だったため、よさこい祭りや大綱まつりに行くことができました。お祭りは若い方が中心となって運営されているようで、地域を盛り上げようと懸命な若い方たちがたくさんいることを知りました。

近所のスーパーには地元農家さんから持ち込まれた新鮮な農作物が安価で売られており、東京ではほとんど自炊しなかった私ですが、楽しんで料理をしました。野菜も米も魚も肉もすべて美味しく、きれいな水が地域には流れており、ゆったりとした時間が流れていました。今まで首都圏を出て生活したことはありませんでしたが、過密な東京に暮らす意味とは何だろうかと考えてしまいました。

病院での研修でも、休日にも、貴重な体験をたくさんさせていただきました。改めまして、この地域研修に関わってくださったすべての方へ心より御礼申し上げます。どうもありがとうございました。